



○既習内容を具体物で想起できるようにするための工夫



「空気中に出ていく水」の学習のために必要な既習内容「水のしみこみ方」について、**より具体的に想起**できるように、実際に使用した観察、実験器具やその結果を提示します。

○事実を確かめるためのタブレット端末の活用



タブレット端末を活用し、誰もが事実を確実に見ることができます。校内の水たまりの変化について細部まで確認でき、**事実から問いを見いだす**ことにつながります。既習内容や生活経験では説明できない事物や現象を目の当たりにすると、新たな問いが生まれてきます。この新たな問いを踏まえて、授業の課題をつくることもできます。

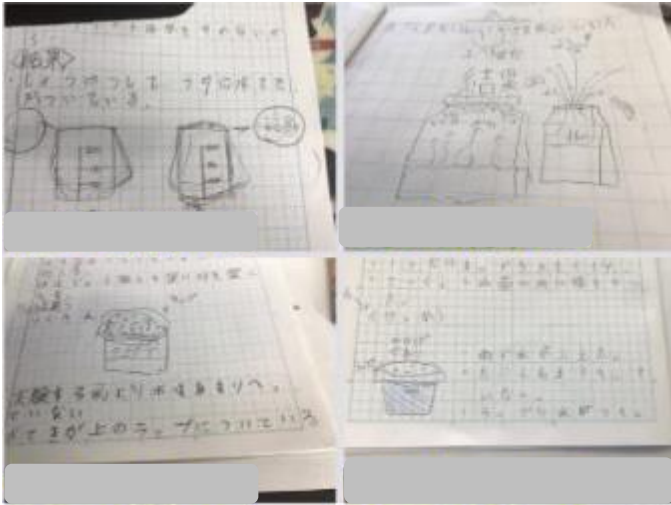


○多様な探究方法の在り方



児童は、自らの問いを解決するために、どのような観察、実験を行えばよいか、その方法を立案するとともに、どのような結果となるのか見通しをもちます。教師は、**児童が考える様々な観察、実験を想定し、実施できる環境を整備**します。

○課題解決に向けた必然性のある交流



児童は自らの問いを解決していくとともに、お互いの観察、実験の結果や考察を伝え合い、聴き合うことで、学びを深めていきます。児童の行った観察、実験が異なるため、協働的に学ぶ必然性が生れます。こうした学びを進めることは、**個別最適な学びと協働的な学びの一体化の実現**につながります。